

《課題名》

弓部大動脈疾患に対する Frozen elephant trunk 法の有効性

《研究対象者》

2008年1月1日から2020年12月31日までに滋賀医科大学附属病院心臓血管外科において、全弓部置換術を施行された方。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報（及び生体試料）を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（試料・情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（１）研究の概要について

研究課題名： 弓部大動脈疾患に対する Frozen elephant trunk 法の有効性

研究期間：滋賀医科大学長承認日～2024年12月31日

研究機関・実施責任者：滋賀医科大学心臓血管外科 高島範之

患者さんの情報を扱うもの：鈴木友彰、木下武、神谷賢一、榎本匡秀、森本政憲、南館直志、脇坂穂高、森陽太郎、浅井徹
情報の管理責任者：高島範之

（２）研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

胸部大動脈瘤や大動脈解離に対して施行する全弓部人工血管置換術は、深い視野での手術操作が必要なことから出血合併症が多く、難易度の高い手術といわれています。2015年から企業性のオープン型ステントグラフトが保険認可され、同手術に利用が可能となりました。このオープン型ステントグラフトを用いた全弓部人工血管置換術は Frozen elephant trunk 法と呼ばれ、特に難しい視野の深い部分での止血を容易にし、従来手術では2回に分けて手術を行う必要がある病変に対しても1回の手術で可能になるなどの有効性が報告されています。各施設によって、さまざまな工夫がされていますが、当院で行っている手術の方法を検討し、従来手術と比較した Frozen elephant trunk 法の有効性を検討します。

（３）研究の方法について

《研究の方法》

当院で管理している電子カルテから患者さんの術前の年齢・性別・BSA・高血圧の有無・脂質異常症の有無・糖尿病の有無、術中の手術時間・人工心肺時間、術後の縦隔炎・脳梗塞・肺炎・腎不全・遠隔死亡などを調べ、統計学的処理を行います。

（４）個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

（５）研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

御本人のデータを本研究に用いることについて、研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される情報の利用を停止することができます。停止を求められる場合は下記連絡先までお申し出ください。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 心臓血管外科 高島範之

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2244

メールアドレス： hqsurge2@belle.shiga-med.ac.jp